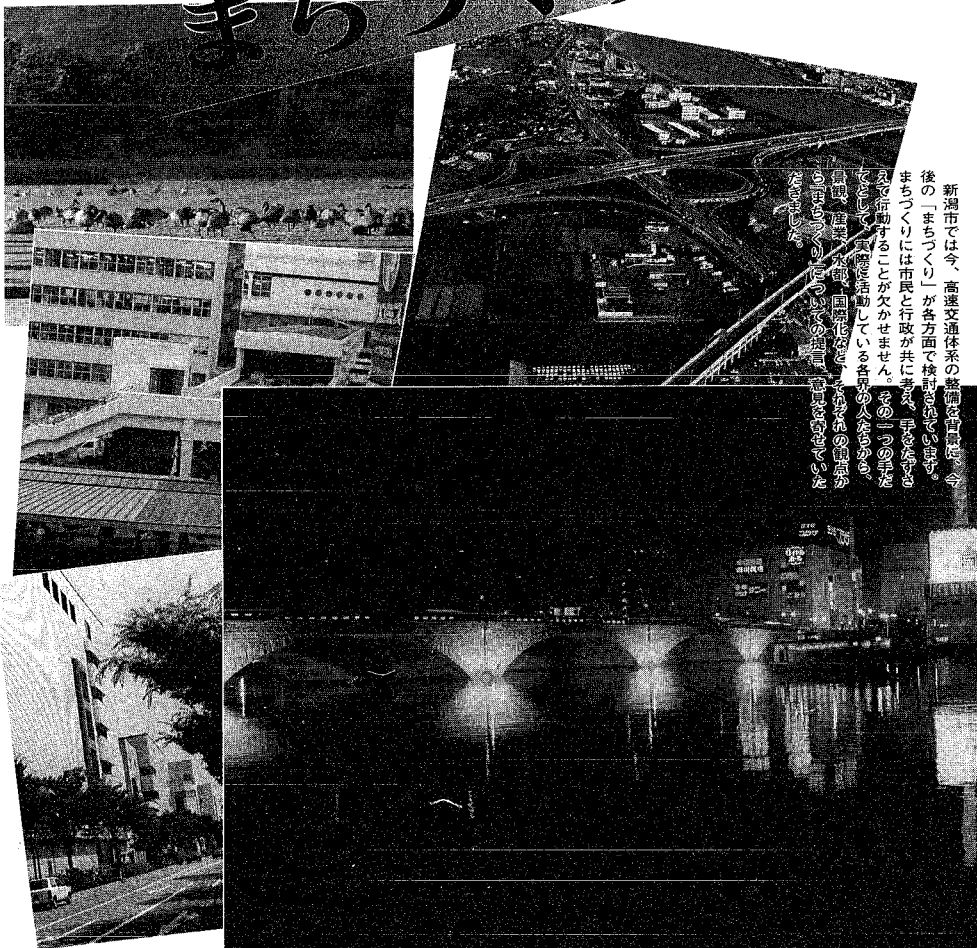




新潟のまちづくりへ提言!



景観、産業、水都、国際化...

各界から11人の意見を集

新潟市では今、高速交通体系の整備が急務だ。今後の「まちづくり」が各方面で検討されています。まちづくりには市民と行政が共に考え、手を合わせることを行動することが欠かせません。その一つの手だてとして、市民の意見を活動している各界の人々から、景観、産業、水都、国際化など、まちづくりの重点が置かれるべきと思われる地域を意見集めていた。

「まちづくり」への展望



樋口 忠彦 さん
新潟大学助教授・工学博士
(工学部建築学専攻)

圏は、新幹線や高速道路などの高速交通体系を整備する。一方、それぞれの地域は、定住と交流の場である地域の整備を、地域の特性を生かすつ、地域みずから創意と工夫により推進する。

この二大脚によって、多極分散型の国土づくりを推し進めていこう。これが、現在の日本の国づくりの考え方です。

そして、新潟は、日本海沿岸地域発展の拠点になるよう位置づけられています。新潟では、新幹線が開通し、高速道路の整備が順調に進み、空港の滑走路も延長されようとしています。高速交通体系を整備するという国の施策は、ここ新潟では、先進的といってもいいほど、着実に推進されています。

ですから、新潟がやらなければならないことは、「定住と交流の場である新潟という地域の整備を、新潟の特性を生かすつ、新潟みずから創意と工夫により推進する」ということです。

新潟の特性ということで、「水」や「食」などがあげられています。まだ他にもあるでしょうが、「二つとも将来性のある、なかなかいい特性ではないか」と思います。問題は、これらの特性をまちづくりにどのように生かしていくか、ということです。

「水の新潟」といっているだけでは何にもなりません。信濃川、西海岸、鳥屋野潟などの水辺一帯を、景観形成地区に指定し、景観ガイドラインを策定する。そして、美しく快適な水辺づくりを積極的に推進する。そのような施策が早急に望まれます。

信濃川のような大河を都心に抱えた都市は、日本にはほとんどありません。また、日本海沿岸都市で、都心が日本海にこれほど近い都市は、新潟のほかありません。金沢、富山、秋田などの都心は内陸にあります。

ですから、新潟はまさにウォーター・フロント都市なのです。水辺を美しい建築と緑で整備すれば、リゾート都市にもなりうる素質もっているのです。

ところで、水と緑のまちづくり、というのがまちづくりでは一般的です。しかし、新潟では（緑）が抜け落ちています。緑が少ない都市であることは確かです。京都も緑の少ない都市ですが、周囲に山があるため救われています。近くに山のない新潟は、ほかの都市以上の緑化の努力が必要です。緑と花の三倍増計画などの積極的施策が望まれます。

こうした魅力ある環境づくりが、新潟の（食）とセットになればいいのではないのでしょうか。新潟は人を呼び寄せるような都市になる。定住ばかりでなく、交流の拠点都市としても発展していけるようになるのではないのでしょうか。

最後に、友好交流都市について触れておきます。国際交流を進めるうえでは、できるだけ多くの友好都市をもつことが望ましいと思います。新潟のまちづくりに夢を与えてくれるような都市。そのような都市と友好関係を結ぶことを考えてもいいのではないのでしょうか。たとえば、新潟と似た、潟につくられた都市、イタリアのヴェネツィアなどはどうでしょうか。